

# **水平リサイクルに向けた取り組みと課題について —油付きPETボトル資源循環に向けた葛藤—**

2026年1月19日  
全国マヨネーズ・ドレッシング類協会

## 加盟企業

11社（協会長：高宮 満 現キユーピー(株)代表取締役社長執行役員）

## 当協会の特徴

- ・市販用、業務用と幅広く対応、多様な容器形態と層構成を有する
- ・油分を扱う商品群が多くを占める

## 容器包装に関する取り組み

- ・軽量化、薄肉化によるリデュースに重点アプローチ
- ・リサイクルについても前向きに検討  
→2022年に調味料・食用油用リサイクルPETボトルの安全性評価が完了し、再生PETボトルの使用が進む

再生技術と回収スキームを経済合理性の有する形で両立させる  
技術：容器物性、食品容器としての衛生性を担保すること  
回収：回収量と回収品の品質を向上させること



材料があっても技術がない  
これまでと変わらず燃やされてしまう

技術があっても材料がない  
宝の持ち腐れ状態

資源循環の取り組みは重量の大きい「ボトル」にまずは着手

マヨネーズ：ボトルがPEとEVOHの複合素材

ドレッシング：油分の付着によりPET単層ボトルでも資源循環NG

	マヨネーズ	ドレッシング
ボトル	PEとEVOHの複合素材	PET (油分により再生樹脂 が褐変する傾向)
キャップ(中栓)	PE、PP	PE、PP
アルミシール	あり	なし
ラベル	なし	PET、PSなど
外袋	PP	なし

#### 年間プラスチック排出量

- ・ PEボトル 3,700t/年 ※1
- ・ 調味料+食用油PET 2~4万t/年 ※2

※1 CLOMAにて概算

※2 PETボトルリサイクル推進協議会年次報告書2024

以降、マヨネーズボトルはマヨボトル、ドレッシングボトルはドレボトルと表記いたします

# 4. マヨボトル資源循環 (1) 取り組み概要

マヨボトルのマテリアルリサイクルに向けた実証実験を推進

技術：ボトルtoボトルをラボベースで技術検証

回収：マヨボトル回収実証を川崎市内のイトーヨーカドー店舗で実施（現在2年目で継続中）

## 回収実証実験の概要※

回収目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済みマヨネーズボトルの状態（汚れ具合など）、回収量などを確認すること</li> <li>生活者に「マヨネーズボトルは再資源化できる可能性がある」と理解いただくこと</li> <li>資源循環に向けた技術検証に活用すること</li> </ul>
回収期間	2024年7月1日（月）～2025年6月30日（月）
回収拠点	イトーヨーカドー溝ノ口店
回収対象	家庭で使用したマヨネーズボトル（キューピー（株）、味の素（株）以外の製品も含む）

※2025年7月以降は3店舗に拡大して継続検証中



回収ボックス設置状況(写真:イトーヨーカドー溝ノ口店)

マテリアルリサイクルは経済合理性の観点からハードルが高い

技術 : ボトルtoボトルは物性上可能、衛生性の担保には高い壁

回収 : 回収品の品質は良い、量を集めアプローチがカギ

経済性 : 許容不可レベルのコストアップが想定

回収実証実験で分かったこと(お客様ヒアリング含)

結果① : マヨボトルが大半で異物が少ない

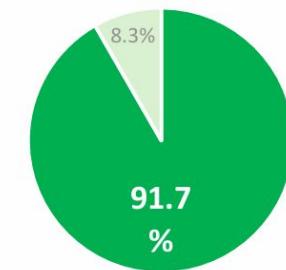
考察① : ボックスデザイン含め、回収対象のPRは成功

結果② : 回収量は少量に留まっている

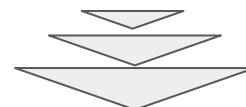
考察② : 1拠点のため、物理的に遠くて参加できない

1本/月の消費頻度なので、そもそも絶対量が少ない

マヨネーズボトル回収比率 (%)



■回収対象 ■回収対象外



回収拠点を増やすことが必要だが、収集運搬コストが大きな負担になる

マヨボトルのマテリアルリサイクルは難しいため、  
ケミカルリサイクルPEや海外で主流であるPETボトルなどの検討が  
今後必要となる

## ケミカルリサイクルPE採用の課題

- ・再生樹脂の調達コスト
- ・ケミカルリサイクル樹脂の供給ができるか

すでにこのタスクフォースで  
議論が出ている部分なので、  
説明は割愛いたします

## PETボトル化の課題

- ・EVOHがなくなることで賞味期限が短くなる  
→食品ロス、商品廃棄に悪影響を及ぼす可能性がある
- ・油×PET樹脂の資源循環という高いハードル



# 5. 油×PET樹脂の資源循環 (1) 当協会の葛藤

7/12

飲料PETボトル由来の再生PET樹脂をドレッシングボトルに採用、油分が付着しているため、使用後は資源循環できずに焼却している

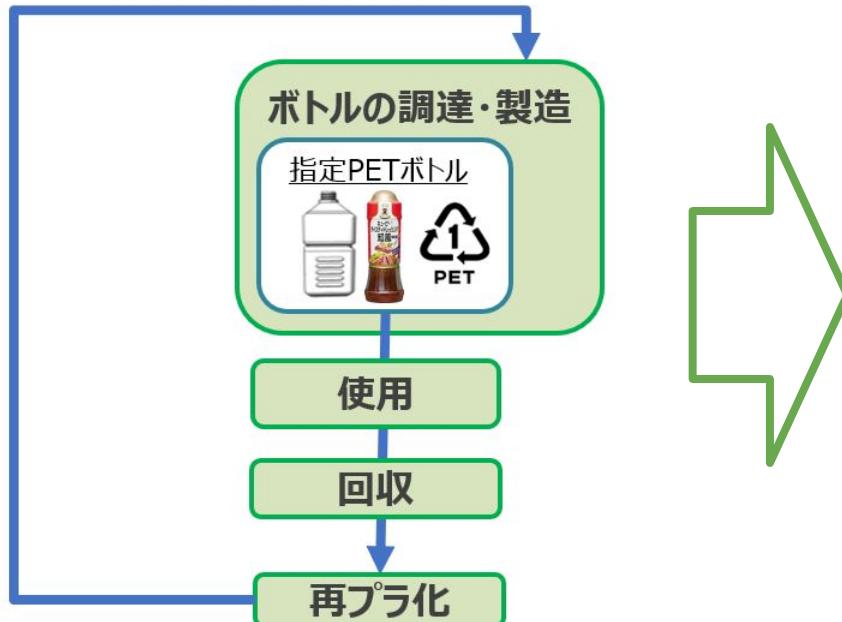
国内PETボトルの資源循環フロー



私たちは再生PETの使用が資源循環への貢献と思いつつ、他方で飲料業界が使用したほうが日本として資源循環が推進するのでは？

飲料PETボトルと同じ扱い（**指定PETマーク**）になり、全国でドレッシングPETボトルが資源循環されている社会をめざしたい

国内PETボトルの資源循環フロー



市町村・店舗での資源回収



# 6. ドレPETボトル資源循環(1) 取り組み概要

9/12

マテリアルリサイクルに向けた実証実験を推進

技術：油付きPETボトル※の洗浄/固相重縮合を実機で検証

回収：油付きPETボトル回収実証を千葉市内のイオン、イオンスタイル店舗で実施

※本取り組みは食用油PETボトルも対象としているため、ドレッシングボトルと記載していない

## 回収実証実験の概要

回収目的	・資源循環の実現に向け、使用済みの油付き PET ボトルの排出量や性状（汚れ具合など）の検証を行うこと ・生活者に「油付き PET ボトルは燃えるごみやプラスチックごみではなく資源になりうる」と理解いただくこと
回収期間	2024 年 5 月 29 日(水) ~11 月 30 日(土)
回収拠点	千葉市内のイオン・イオンスタイル 8 店舗 イオンスタイル幕張新都心、イオンスタイル幕張ベイパーク、イオンスタイル鎌取、イオンスタイル検見川浜、イオン海浜幕張店、イオンマリンピア店、イオン稻毛店、イオンスタイル千葉みなと
回収対象	家庭で使用したドレッシングや食用油の油付き PET ボトル（キューピー、日清オイリオグループ以外の製品も含む）



回収ボックス設置状況（写真：イオンスタイル幕張ベイパーク）

油が付着していても食品容器としてボトルtoボトルの可能性あり

技術 : 検証中（現時点で非開示）

回収 : 異物多数、「油付きPETボトル」はお客様に伝わりにくい

## 回収実証実験で分かったこと

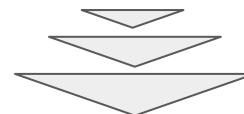
結果① : 飲料PETボトルが多数混在していた

考察① : 「PETボトル＝飲料ボトル」と思う方が一定数いる

結果② : 食用油PEボトルが多数混在していた

ボトルは手間をかけて油を落としているものが大多数

考察② : PET、PEなどは分からず、あくまで「油付着したプラスチック」と認識する方が多い



食用油PEボトル

生活者に分かりやすく伝えることが重要だと改めて認識

PETボトルは資源循環の好事例と言われておりますが、ドレッシングを代表とする油が付着したPETボトルは例外となっております。

ドレPETボトルを全国で資源循環するため「指定PETマーク化」を検討しておりますが、当協会だけでの解決が困難な課題も多いです

課題①：管理できないゴール設定（資源有効利用促進法の見直し）

課題②：各業界（リサイクラー、纖維業界含む）との合意形成

課題③：全国の生活者に向けた継続的な啓発活動

関係省庁の皆様においては、当協会の取り組みを前向きに受け取っていただき、様々な議論をさせていただきたい

個々の団体・企業が資源循環を進める動きは以下のフォローがあることで、より加速すると考えます

- ①：前例がない資源循環の取り組みを進めているなかで、推奨ルート（何ができると社会実装できるのか）を行政として提示いただけだと、チャレンジしやすくなる
- ②：新たなチャレンジに対するインセンティブ（特に経済的なもの）があると更に積極的に動くことができる

**資料終了**

2026年1月19日  
全国マヨネーズ・ドレッシング類協会